



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第27回例会(1月30日)
平成27年2月6日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 長澤 茂
幹 事 嶋山 桂
会 報 古山 明彦
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Light Up Rotary, "ロータリーに輝きを"..... ゲイリー C. K. ホアン

ゲスト卓話



「(戦国末期) 南部藩を救った前田利家…
約束の手紙 (起請文)」

元会員
下山 寛様

卓話の機会を戴き有難うございます。
盛岡ロータリーは盛岡の老舗の経営者の方たちの集まりでもあり、また中央の出先機関の支店長さんたちも多数入会していますので、是非隠れた南部藩の歴史を知って戴き少しでも盛岡ロータリーのお役に立てばと思っております。
今日は余り知られていない…南部藩の名君と言われた26代信直公の話に触れて見たいと思います。



去年の5月30日の週刊朝日です。
ここに南部利文さんの記事が載って居ります。歴代の南部藩の藩主に「利」と言う字が付いているのは加賀前田利家の力添で自分たちの領地を秀吉に認めてもらったので……その御恩を忘れないように江戸時代以降は名前に「利」を使わせていただく事が多くなったと書いております。

その御恩とは
(戦国末期)
前田利家の手紙 (起請文)
血判を押し、神かけて
26代信直との約束

それではその「御恩」とは実際にどのような事だったのか……。
現在の南部藩の歴史では、秀吉から貰った

「領土安堵の朱印状」だけが目立っており、前田利家の力添えがあったことは余り表に出てきませんが、実際はこの時の前田利家の力添えが無かったならば……。

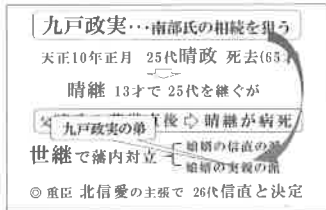
秀吉からの御朱印状が貰えなかったかもしれないし、或は九戸政実につぶされており、幕末までの南部八百年も無かったのでは無いかとさえ考えられる大切な事であったと思います。今日はそれに触れてみたいと思います。

戦国末期…一族の内紛 (1570頃)
当時 藩主 24代晴政 に世嗣なく
娘婿に叔父の子↳ 信直 世嗣を迎える
晴政53才の時に 男子(晴継)生れ
娘婿の(物)信直と晴政が不和
二派に分かれて内紛が始まる
* 晴政支持派…七戸家國、柳引清長など
* 信直支持派…北信愛、八戸政榮など

- 室町時代末期 (1590) に、24代晴政には男の子が無く女の子だけが5人おり、夫々5人の娘には婿をとっております。
- この時晴政は南部氏の世嗣として長女に藩主晴政の甥 (先代安信の子) の信直を娘婿にして嫡男と決めておりました。
(次女は九戸政実の弟の実親、三女は東中務朝政、四女は南盛義、五女が北秀愛に嫁ぐ) ところが晴政が晩年 (1569) の53歳の時に、男の子 (晴継) が生まれました。
- それ以降は何処にでもある話ですが……自分の子に世継ぎをさせたくなり世嗣としていた娘婿信直との間がぎくしゃくし、遂には娘婿の信直を廃嫡させてしまいます。
晴政は信直を廃嫡させただけではなく信直を支持する北信愛の剣吉城や南慶儀の浅水城などに攻撃を加えるなどしたため、領内の動揺が激しくこの事によって南部一族の間で晴政派と信

直派とに分かれて一族で内紛を引き起こしております。

年を取ってから生まれた男の子に跡を継がせるような事は何処にでもある話で、私はこの事に関しては致し方ない話ではないかと思う節もありますが、当時の南部一族では大きな紛争となったと歴史上で記述されております。



……南部一族の内紛は政実の仕置き迄含めると十数年にも及んでおります……。

●その後晴政が天正10年に66歳で(1582・正月4日)亡くなり、直後に子の晴継がまだ若干13歳で25代を継ぎました。

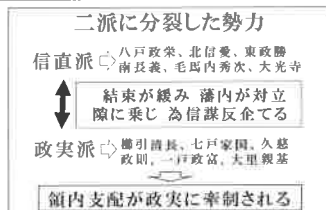
●しかし父親晴政の葬儀(正月24日)を終えての直後の帰り道で、晴継が賊に襲われて死亡する事件が起きております。…(政実の暗殺説)

その後は南部家中は世継不在の大騒動になったところです。

その時九戸政実は、弟の実親が次女の娘婿であることから弟の実親を跡継ぎに狙いました。当時の政実はかなりの実力を備えており南部一族の間でも政実側につく家臣も多く、藩内は政実の弟の実親を推す派と、廃嫡された信直を推す派の二つの割れて争いが一段と強まる結果となっております。

●然し最後に剣吉城主で信直派の家老北信愛が「信直は既に先代の晴政が叔父の子として嫡男に決めていた経緯もあり、また血筋の上でも24代晴政の甥で血筋も正しく南部の城主として最も相応しい人物である」と筋を通して周りを説得し、最後に信直が26代に決定することが出来たところでした。

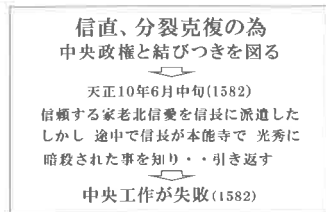
●家老の北愛親の主張により世嗣をねらった九戸政実の派は敗れましたがその後は信直と九戸政実との対立が決定的となったわけです。



北信愛の裁量によって信直が南部家26代を継ぐことに決まったものの政実一派と信直派と

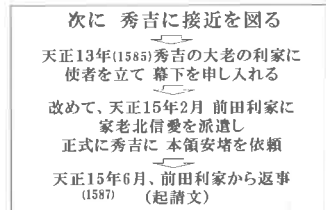
の内部の対立は大きなしこりを残したままでした。・当時政実の力は大きなものがあり、26代信直も一門の統一が政実に牽制されて儼然ない状況が続くようになってしまいました。

また此の内紛の際に乗じて今まで南部の家臣であった津軽為信が謀反独立をしております。津軽為信の謀反独立の時に陰で九戸政実が与しており、津軽為信の謀反独立以降は青森では津軽と南部が犬猿の仲となったといわれている由縁です。



信直は、内紛を克服するに中央政権に近づき中央政権の力を借りながら一族を統一しようと考え、織田信長に接近を図っております。

そのため信直は1582(天正10)年6月、北信愛を京都に向かわせて信長に接近を図りました。しかし上洛の途中で本能寺の変が起きてしまい信長が自ら命を絶ち、止むを得ず帰国せざるを得ず中央工作は失敗に終わっております。



当時の中央の政変はご存知のように目まぐるしく動いており、中でも柴田勝家が秀吉との反乱もあって落ち着いた状況ではありませんでした。

この時、秀吉政権の樹立に関わったのが加賀前田利家であり(賤ヶ岳の戦いで豊臣秀吉と柴田勝家の戦いがあった時に利家は柴田勝家を裏切り秀吉に味方をして秀吉の天下をとる勝利に大きく貢献をしています)利家は秀吉の信頼が並み居る武将の中で最も厚く秀吉五大老の一人として大なる信頼を持っていた家老でした。

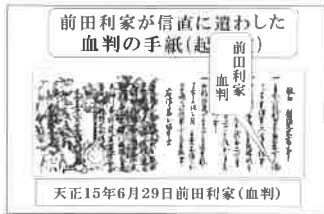
信直は「賤ヶ岳の戦い」で秀吉が勝利したことを見て時代は秀吉の政権に入ったことを確信をして1587(天正15)年に再び中央工作を試みることに考えました。

今度は直接に秀吉に接近をする事ではなく、秀吉に信頼の厚い加賀前田利家に接近を図り……利家から秀吉との取成しを依頼して貰おうと考え、南部の優秀な鷹31羽を選んで前田利

家に贈り、礼を盡して取成しを依頼しております。

北信愛が再び使者として立ちましたが、戦乱の時代の冬の2月に三戸を出発し途中52日もかけて金沢に到着しております。戦国の世に冬の雪道で難儀を極めて鷹を届けた事で利家に誠意が通じ、利家が非常に喜び、当時秀吉が九州島津を討伐するために出陣中でもあったので、北信愛は其の儘三戸に帰って来ております。

その後間もなく、1587(天正15)年の6月29日付の手紙が前田利家から信直宛てに手紙が届いており、その手紙が皆さんのお手元に配布している起請文と言われる書き物です。



これが前田利家から26代信直に届けられてきた手紙ですが正式には歴史上では起請文と呼ばれております。注目すべきはこの起請文に前田利家の血判が押されております。普通は自分の花押を押して親書を認めるのですが血判まで押すことは極めて稀な事だと言われております。……起請文の説明……

一、自今以後(今後)別して如在存せず(離れ離れで連絡もつかず)申し談ずべく候あいだ(話し合いをすることも出来ない)互いに慎重裏裏有るべからず事(互いに慎重に裏表を出さない事)

一、関白様へお取成し候儀(関白様へお取成しをするため)毛頭疎略有るまじく候(些かもぞんざいにならない様)御身上の儀(貴殿におかれても)無二御下知守らるべき事(此のこと以外に守るべき事は無い)その段手前において油断有るべからず事(その事で当方も油断無いようあるべきのこと)

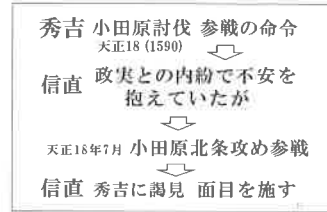
一、斯の如く相究め候上は(このように取り決めた上は)御進退見放し申すまじく候(貴殿を見放すことはない)但し上意に対され不義の御覚悟においては(但し関白様に対して不義理することあれば)この誓紙反故たるべき事(この約束は反故される事になり)

右の条条、もし偽り申すにおいては(右の各々条条に偽らないことを)

上は梵天(梵天…釈迦が仏法を広めるように勧めたのが梵天で仏教での守護神)帝釈四天王(東西南北の仏教の守護神)惣て日本国中大小神祇、ことに春日大明神八幡大菩薩愛宕大権現、

白山(石川県の山)三神天満大自在天神(仏教の俗界の最上位の天神)おのおの神罰冥罰蒙られるべきもの也(各々の神々の神罰蒙るものなり)依って起請文件の如し

天正十五年六月二十九日 権少将利家(花押) 南部大膳大夫殿

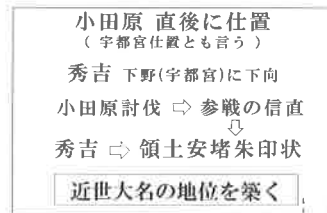


これを機会にして前田利家から信直の許に秀吉惣無事令の情報や小田原征伐などの情報が入るようになったと言われております。

前田利家から起請文を受け取った後の天正18年(1590)に秀吉の小田原の北条討伐があり、秀吉が関東以北の領主(城主)に参戦命令を出した時に、信直は既に利家から様々な情報入手しており、九戸政実一派との内紛を抱えて大変であったけれども三戸城を根城城主の南部政業に留守を託し小田原征伐に加わって秀吉の中央政権に与した所でした。

小田原の北条は秀吉によって討伐されましたが、信直は内紛を抱えながらも秀吉の小田原討伐に参戦して面目を施し、直後の宇都宮で行われた「奥州仕置」で秀吉から「領土安堵の御朱印状」を貰い大名の地位を確立し南部惣領として認めてもらうことが出来たわけです。

前にも述べたように利家は事前に信直に対して色々情報を知らせており、小田原討伐の際には何を置いても参戦を促すことを連絡していたと言われております。



小田原征伐が終わった直後の天正18年7月27日……下野の宇都宮で小田原討伐の総活が行われました。それが所謂、宇都宮仕置きとも言われています。

信直は宇都宮で津軽為信に奪われた津軽も安堵して欲しいと願い出ておりますが、既に秀吉が為信に津軽を安堵をしているのでそれは許されず、信直は改めて津軽を失うことが決定的になった訳でしたが……。

●信直は小田原参戦の功を認められて秀吉から

南部所領7群について領土安堵の覚書（朱印状）を与えられた外に、惣無事令発出後に信直が奪った紫波を黙認してもらい、加えて小田原に不参加で領地を改易（没収）された和賀・稗貫・阿曾沼等が新たな領土として信直に加えられております。中でも最も大きいのがこれによって信直が大名の地位を確固たるものとした上に南部惣領としての地位を豊臣政権から認められた事でした。

反対にこの時、東北の雄の伊達政宗は直前まで小田原の北条と与して秀吉に抵抗しようとしていたけれども、余りの実力の差に抵抗を断念し秀吉の傘下に入ったと言われております（この時政宗は白装束姿になり小田原で秀吉に謝ったと言われてる）。

外にも秀吉に命に従わないで独自に勢力を伸ばそうとして参戦しなかった石川昭光・葛西晴信・大崎義隆・黒川晴氏・田村宗顕・白河義親・和賀義忠・稗貫弘忠・阿曾沼広長・江差信胤たちは領地を没収されてしまいました。九戸政実も伊達政宗と陰で通じており密かに津軽為信と同じように独立を狙っていたとも言われております。

豊臣政権の幕下に入ることによって生き延びを図った南部信直と、秀吉を無視して勢力を伸ばそうとした外の城主達との考え方の違いは対照的であり、信直の政治力の考察の差が正に信直が後世名君と言われた由縁でもあると思います。

……………宇都宮で仕置きされた城主……………
 ・改易（領地没収）…石川昭光・葛西晴信・大

- 崎義隆・黒川晴氏・田村宗顕・白河義親・和賀義忠・稗貫弘忠・阿曾沼広長・江差信胤
- ・減封…伊達政宗（150万石から75万石…会津を失う）
- ・領土安堵…南部信直・最上義光・相馬義胤・秋田実季・戸沢盛安
- ・新封…蒲生氏郷（会津42万石）



これがその時に秀吉から領土を安堵された「御朱印状」です。これによって南部信直が天下の大名として認知されたわけでしたが、前述したように前田利家が信直の人柄を信じて陰ながら秀吉幕下になる手助けによるものでした。その恩義を受けてその後は後々まで、南部家では前田利家の恩義に報いるために信直の子の利直公の代から代々「利」を戴くようになっております。

しかし信直もこれで安心では無く、南部藩ではその後も九戸政実との内紛が続き、遂には「九戸政実の一揆謀反」が起きております。

政実の怒りを買った九戸城は秀吉の六万余の軍勢で囲まれる事になった訳です。野望をもっていた九戸政実は世の流れを受け止めることが出来ず自らを滅ぼす結果となったわけでした。

例 会 報 告

第27回例会 平成27年1月30日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 駒木 進副会長
 - ・ソング 手に手つないで
 - ・ゲスト 下山 寛様(元会員)
 - ・会長報告 駒木 進副会長
 - ・入会祝 工藤博司・佐藤重昭君。
 - ・幹事報告 樋山 桂幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡西R.C.=2月12日(木)は、ロータリーデー参加のため15日(日)盛岡八幡宮。
- 盛岡南R.C.=2月17日(火)は、職場訪問例会のため12:30~盛岡地区広域消防組合消防本部。
- 盛岡中央R.C.=2月17日(火)は、通常夜例会 ロータリーデー開催のため15日(日)盛岡八幡宮。2月24日(火)は、賀寿例会のため

18:30~「一の浜」。

- 盛岡西北R.C.=2月25日(水)は、創立25周年記念例会のため18:30~時間変更。

●メークアップ

盛岡北R.C.=平井・川村(登)君。
 盛岡西R.C.=長谷川・中山君。
 盛岡南R.C.=吉田(幸)君。盛岡東R.C.=福田・金子・勝部・菊池・佐藤(仁)君。クラブ委員会=星君。

※訂正とお詫び…第26回例会(1月23日)号において、4ページの「創立記念例会について」の中で、創立記念例会を2月22日(日)と記載しましたが、2月20日(金)の誤りでした。訂正の上、深くお詫び申し上げます。

出席報告 会員数/73名 出席数/47名 出席率/66.20% 前々回修正出席率/76.81%

プログラムの お知らせ

- ・2月 6日(金) 新入会員卓話 金沢 滋会員
- 「一林業とエネルギー— 東日本大震災後の実情」
- 13日(金) 第3回クラブアッセンブリー

- 本号編集担当/菊池 尚
- 次号編集担当/高柳 一郎